



# 康心会汐見台病院 産科だより

平成 30 年

突然秋らしく涼しくなったと思ったら、台風・雨ばかりで洗濯物に困る毎日です。秋の長雨って言葉がしつくりきます。

我が家ではこの夏、アゲハチョウの幼虫を捕まえては、成虫になるまで育てる自由研究のようなことをしていました。始まりは祖父の畑で育っていた人参の葉を食っていたキアゲハの幼虫。祖父にとっては大事に育てている野菜を食べられてしまったので、腹立たしい存在で、あやうく潰されてしまうところでしたが、そこを母が救出。我が家のペットとして迎え入れようと、原チャリに乗せて連れて帰ってきました。（畑は自宅から少し離れています）そこからナミアゲハ、ナガサキアゲハ、クロアゲハと様々な種類を育て、脱皮、蛹化、羽化の様子を夜中に目覚ましをかけてまで観察し、巣立つ瞬間を見届けてきました。巣立つ瞬間は「ようやくこの時がきたか」と非常に感慨深いですね。ただ、我が家のアゲハたちが巣立つ日は高確率で雨。育ての親としては非常に心配の毎日です。



◆最近話題の風疹（ふうしん）について  
ここ最近テレビでよく取り上げられている風疹についてお話しします。

風疹は、2〜3週間の潜伏期間を経て、微熱・頭痛・倦怠感・咳などの風邪に似た症状+痛みのない口蓋斑点（口の中に赤いぶつぶつ）、首のリンパ節腫脹、顔・耳の後ろから全身に広がる発疹などの症状があります。

では、妊娠中に罹患してしまった場合、どのような影響があるのか。特に、妊娠20週頃までに罹患すると胎児にも感染し「先天性風疹症候群」という病気になる可能性があります。症状としては難聴や心疾患、白内障、低出生体重、精神・運動発達の遅れなどさまざまです。

そこで気になるのが、自分に風疹の抗体があるかどうかですが、採血でわかります。抗体は32倍以上が望ましく、妊娠を希望している人、産後のママで16倍以下の方にはワクチン接種を推奨しています。ワクチン接種は妊娠するママだけではなく、周囲の方にも推奨しています。なぜなら、周囲の方が感染し、そこからママに感染する可能性があるからです。自分は男だから、子どもはいらなから関係ないというわけではなく、妊娠を希望している方たちのためにも、みんなが協力することが大切になります。もちろん、自分自身の予防にもなります。現在、横浜市在住の方は「横浜市風しん対策事業」で抗体検査を無料で受けられますし、補

助券を利用して予防接種することもできます。当院では妊娠中に抗体価の低かった産後のママに1ヶ月健診の時に接種してもらおうようおすすめしています。横浜市のHPも参考にしてみてください、今一度、みなさまも予防接種を考えてみてください。

## ◆今月の赤ちゃん

今回はわたしの友人に借りたエコー写真です。あまりきれいに写ってはいませんが、11週くらいの頭の断面です。この時、16.5mm。



ようか。こんなに小さかったのに、今となってはいつ産まれてもいい時期になっており、いつ陣痛がくるのか友人も私もドキドキの日です。ビー玉サイズだったこの子がどんな顔をしているのか非常に楽しみです。予定日は今月の14日。来月号には、待ちに待ったそのお顔が見られると思います。

## ◆編集後記

産科だより、去年の10月から始め、早くも1年が経ちました。毎月書いているうちに構成ができて安定しましたが、最初の頃は探り探りだったので、今では恥ずかしくて消してもらいたいくらいです。これからもよろしく願いいたします。

担当 郷原